

第3回 尼崎市総合計画審議会 議事録

日時	平成29年9月20日(水)18:00~
場所	尼崎市役所 北館4-1会議室
出席委員	梅谷委員、加藤委員、佐藤委員、久委員、梶岡委員、川島委員、馬場委員、島田委員、松井委員、和田委員、安田委員、岸田委員、別府委員、徳田委員、須田委員、原田委員、尾藤委員
欠席委員	稲垣委員、川中委員、紅谷委員、瀧川委員、明見委員
事務局	中川政策部長、堀井政策課長、政策課職員

1 開会

資料の確認

会議録の紹介

委員自己紹介

議事録署名委員の指名

2 尼崎市総合計画後期まちづくり基本計画(素案)に対する市民意見公募手続の結果について

(会長)

それでは、次第2に移ります。「後期まちづくり基本計画(素案)に対する市民意見公募手続の結果」について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

(資料第1号-1、1号-2、1号-3、1号-4について説明)

(会長)

市民の皆さんからはパブリックコメントでも真摯なコメントをたくさん頂きましたので、それに対して事務局の方で考え方を整理していただきました。これだけ伺っていてもいろいろと考えさせられるところが多いのですが、説明を聞かれて、忌憚のないご意見、ご質問を頂ければと思います。よろしく願いいたします。

◆ 後期計画へ反映する新たな要素と、市民への周知について

(委員)

2点ほど伺いたいと思います。

1つは、パブリックコメントの結果の「ア 1」で、今回、前期計画から後期計画に向けての状況の変化として、「介護保険事業の問題、国民健康保険の問題、公共施設のマネジメント等を記載すべき」という意見に対し、すでに市の考え方としては盛り込み済みということで、今後の取組の中で反映させるようになっています。それはそれで良いのですが、やはり状況の変化は大きな要因ですので、例えば、総合計画(案)のP5の「前期計画策定後における本市を取り巻く状況の変化」の中に何らかの形でこれを反映できないかと思います。

2つ目は市民説明会についてですが、6回開催されて27人の参加でした。苦労されているのは分かりますし、説明の仕方も市民の方々に分かるようにスライドを使って背景の問題や市の状況を分かりやすく説明されましたが、もっと参加者が増えるべきだという意味では、周知の期間が短いのではないかと感じています。少なくとも1ヶ月くらいかけることが必要かと思えますし、ホームページや市報で案内されていますが、案内のピラ等の紙媒体を作って幅広く公民館や支所等にも置く、可能な限り町会等にも配布する等、もっと周知できないかと感じました。

(事務局)

1つ目の質問についてですが、P5に記載している「後期計画へ反映する新たな要素」は基本的な考え方として、尼崎市特有で今後5年間に取り組んでいくべき主要取組項目につながるような内容を記載しています。

例えば、国民健康保険の県所管への移行に関しては、前期計画の「施策10 医療保険・年金」と「施策11 地域保健」を後期計画では「施策10 健康支援」として集約して記載していますが、その理由は、国保が県所管になることに加え、尼崎市としては予防という観点で統一して取り組んでいくという意味です。

高齢者に関する制度の変更としては、国における介護制度の変更になりますが、高齢者支援の中では地域に根付いて予防に取り組まなければならない、高齢者の増加の問題等も含めて記載しているなどで、各施策の背景については施策ごとに記載させていただいております。

ファシリティマネジメントについては、前期計画と同様主要取組項目に記載していることに加え、後期計画ではP11人口について記載があるページがあり、「人口構造の変化への対応」として、なぜファシリティマネジメントに取り組まなければならないかということを変更して記載しています。

市民説明会については、ご指摘のとおりで、市報やホームページに掲載しましたが参加者が少ないという状況でありました。情報発信の方法も変化していますので、それらを検討しなければならないと思っています。

パブリックコメントについても、従前は意見募集の時のみ情報を出していましたが、数年前に見直しを行い、今回の総合計画については平成28年10月頃の段階で「今後、総合計画の策定に取り組みます」と、パブリックコメント実施の前段階で意見聴取プロセスとして「パブリックコメントの時期等」を事前にご提示しています。パブリックコメント期間中でなくても、いろいろなご意見があれば頂きたいという制度にしていますが、ご指摘のとおり、それで多くの意見を頂いているかということではございませんので、方策を考えていかなければならないと思っています。

(委員)

一番重要なことは、総合計画を策定するだけでは宝の持ち腐れになってしまうので、いかに市民の皆さんに周知を徹底するかということです。伝わらなければ無きに等しいと思います。今、市民懇話会では「劇を作ろう」とか「『4つのありたいまち』それぞれのシナリオを作ろう」等、市民が案を持ち寄って検討を始めています。これからどうすれば良いのかというアクションプランについても、市民や総合計画審議会の皆さんと一緒に考えて

はどうかと思っています。

もう1つ、社会的な環境についてはメディアが変化していますので、どう変わったのかという点で、IT関係の対策が抜けている感じがします。今まで通りに進めていますが、別のところから大きな波が来ているのに、それに対して何も見えていないという状況があるのではないかと思います。

(事務局)

補足させていただきますと、市民の方20名とアドバイザーに入っている総合計画市民懇話会があります。総合計画を市民につないでいくという意味で、分かりやすいイラスト等を使った読本等がありますので、そういうものを使ってどのように総合計画を市民の方に伝えていけば良いか、委員にアドバイザーとして先導して考えていただいているところです。また、周知方法についても良い方法がないかとアドバイスを頂いているところです。

(会長)

市民の皆さんとの協働は総合計画策定の上で重要なポイントだと思いますので、委員にコメントを頂きたいと思います。

(委員)

聞いていただけない方にいかに情報を発するかというのは難しい問題だと思いますが、一番確実なのは、皆が声を掛け合う「くちコミ」です。ただ、ご指摘のように、最近はSNSという新しい「くちコミ」ツールができています。市役所が発信する以上に我々も仲間に発信していくことが必要です。顔の見える関係の中での「くちコミ」が一番効きますので、それを皆で頑張っていくということです。

「みんなのサマーセミナー」も「くちコミ」だけで5,300人も集まりました。最近の新しいツールにはそれだけの力がありますので、説明会も含めて、いろいろなことを皆で発信しあって広げていくこと、特に今まであまり関心がなかった人たちにも来ていただくために、そういう方に向けて知り合いの方から声をかけていただいて、来ていただいて意欲を高めていただき、その方がまた次の方に声をかけていただくというような方法を一緒にさせていただいてはどうかと思っています。

(事務局)

今回のパブリックコメント及び市民説明会については、総合計画市民懇話会委員のFacebookに案内を載せていただきました。ご協力いただき、ありがとうございました。

(会長)

それでは、ご協力いただいた委員にも一言コメントを頂きたいと思います。

(委員)

閲覧が数千人単位の「ええ街、尼崎」というFacebookがあり、そこに投稿させていただいたのですが、数名の方から意見や質問がコメントとして書き込まれました。

今後、説明会等がある時は LINE にも載せてほしいと思います。LINE に載せていただくと、登録されているいろいろな世代の方が見られると思いますので。

(事務局)

今はいろいろなことを試している段階です。例えば、尼崎市の Facebook の現状は、いろいろなところが個々に Facebook を立ち上げている状態です。そうすると、知っている人しか見ないので Facebook を作ってもあまり意味のないものになります。そこで、市の大元の Facebook に各々の Facebook から載せるものをピックアップして載せることができないかと検討しているようです。まだ、その途上段階ですので、考えていないわけではありませんが、追いつけていないというのが現状です。

(会長)

委員からご指摘があったように、情報化の波は大きく差し迫っていますので、情報化戦略を早く市の方で立ち上げられた方が良いかもしれません。

(事務局)

説明会について「どのようにして知ったか」と伺うと、参加した人の Facebook を見た方が多かったので、参加された方には「Facebook に載せてください」とお願いしていました。今回は 2 日間で行ったので、時間的なこともあったと思いますが、そのように「一緒に広めてください」というお願いも必要だと感じたところがあります。

(会長)

Facebook は中高齢の方が見る傾向がありますが、やはり若い人に浸透することが重要だと思うなら、その点も早急にご検討いただければ良いのではないかと思います。

(委員)

8 月は夏祭りが多い時期でしたが、そのような場でビラを配ることはできなかったのでしょうか。

(事務局)

そういうことも検討しなければならないと、反省も含めて考えています。どの祭りまでにするかという問題はありますが、例えば「みんなのサマーセミナー」のような大きなイベントでは配付した方が良いと思います。今回、参加者は多くなかったのですが、「みんなのサマーセミナー」でも総合計画を周知するような教室を持たせていただきました。

(会長)

計画づくりをお手伝いする機会が多いのですが、市民にどう知っていただくかということが必ず大きな課題となります。情報の共有は最大の課題であり、本日も冒頭から数々のご指摘が出ていますので、是非ともご検討いただきたいと思います。

(委員)

市内の労働組合に資料を出すことがあります。QRコード等を付けて、それをスマホ等で読み取ると市の労働組合の情報を見られるようになります。そのようなものもあると良いのではないのでしょうか。

(委員)

今の話に関連して、是非とも障害のある方にも情報が伝わりやすいように配慮をいただきたいと思います。併せて、子育て世帯も参加しやすいように、説明会のセッティングも配慮いただければと思います。

(会長)

まさしく、そのままでは情報が届き難い方に積極的に情報を届けるのは重要なポイントだと思います。いろいろな手法が次々に出てくるとと思いますので、ご検討をお願いします。他にご質問等はございませんか。

◆ 市民の会合等への出張説明の必要性について

(委員)

武庫地区の武庫会の勉強会に市の職員が本日説明に来ていただきました。武庫会の方は高齢者が多いのですが、「総合計画とはどういうものか」ということを平易な言葉で細かく解説していただいたので、理解していただいたような気がします。後から4~5人で集まった時に、「総合計画を初めて聞いた」という意見が多く出され、「尼崎の憲法か」と言われる人もいましたので、そのような状態ですので、ここで解説されるような話をされていたら「そんな難しいことなら、もういい」となっていたかもしれません。そういう点で、本日の我々の勉強会はとても良かったと思います。

このように、「これで決まった」という説明会ではなく、「そういうことがあるから次の時代につなごう」というように話を持っていくと、市民は1つも聞き漏らさずに生活の中に取り込もうという気になると思います。PTAの方も来られていましたが、今、中学校の給食に対する関心が高まっていますので、恐らく具体化されるかと思って動くと思います。

その中でも、人口の移り変わりで、将来、一番大事なところで中堅になるような人たちが子どもたちを連れて出て行ってしまうという話がショックだったようです。残るのは高齢者ばかりになるが、健康な間はお金がかからないということももっと具体的に言われて良いと思います。30代、40代は一番脂の乗った世代であり、そういう人たちが次の時代を担う子どもたちを連れて出てしまうことを引き留める方法を計画するのが総合計画だと思います。

5年ごとに前期・後期に分けられていて短い期間ですので、結果もよく分かると思います。これが一気に10年経ってしまうと「10年前の計画がこれで、その結果がこれ」と言われても、分からないと思いますので、5年というのは皆さんに浸透した頃に見直しになって良いと思います。

事務局も大変だと思いますが、本日のような説明の場をもっと開いていただくのも良いと思います。

(会長)

武庫会の勉強会に市の方から説明に行かれたわけですね。非常に評判が良いので、是非とも市でそれを展開していただきたいと思います。

(事務局)

我々も市民の皆様のところでは話をするのは正直怖い部分もありますが、声をかけていただけましたら、いつでも、どこでも伺いたいと思っています。

(会長)

他にはいかがでしょうか。

◆ 自転車の安全・安心に関する指標と、目標値の算出方法について

(委員)

「施策 12 生活安全」の指標で「安全・安心・快適に自転車を利用できていると感じている市民の割合」の目標値が、できるだけ現実的な数値に切り替えるということで90%から60.7%にされたのは分かりますが、尼崎の現状を見ますと、自転車におけるひったくり、自転車盗難、あるいは自転車に関連する事故が増えており、そういう中でこの60.7%という数値はどこから出してこられたのでしょうか。目標値はできるだけ高めに設定しておいて、そこに向かって努力しないと、今の自転車に関連する問題は減らないと思います。それについて伺いたいと思います。

(事務局)

「施策 12 生活安全」の指標については、元々前期計画でも別の指標名で「日常生活を安心して過ごすことができていると思う市民の割合」を挙げていましたが、尼崎は平坦で「自転車のまち」と言っても良いくらいですので、これまで「都市課題」になっていたものを「都市魅力」に転換しようということになり、それに従いまして、これまでの指標が「日常生活を安心して過ごすことができていると思う市民の割合」と大括りになっていたところを、もっと細分化しようということで、まずは「施策 12 生活安全」の指標が3点出てきました。

目標値の出し方としましては、今までの推移が出ているものについては、施策によって今までの推移に対して強く取り組んでいくなれば少し角度を上げますし、このままの推移で頑張るなら角度もキープしていくという形で、元々の指標も活用しながら決定しています。また、例えば、部門別計画の方で具体的な数値を決めているものについては、それを落とし込んだり、年次が違ふものは途中の数字を記載したりしています。

ただ、今回の後期計画で新しく作った全く新しい観点の指標については、策定時の値はあっても推計することができないので希望的な数値を挙げている指標もありますが、基本的には似たような指標の推移を見ながら決定しています。

(事務局)

補足させていただきますと、今挙げられた「指標 12 生活安全」の目標値の60.7%は、前期の推移を見えています。その中で、高い目標を立てたいという思いは市も持っていますので、アンケートでの回答の推移として凸凹があるものに対して、今回は高い目標を立て

るために減少した部分は考えず、伸び率だけを追った結果、60.7%という数値になりました。したがって、単純に5年間の平均を置くのではなく、伸びた分だけを足した時に60.7%という設定になっていますので、これを高いと見るか、低いと見るかという感覚の差はありますが、市の意識として単純に置くよりも高めに設定したのがこの60.7%という数字になっています。

(委員)

今の説明であれば、これでも高い数値だということですが、先ほど挙げたような問題があるので、「安全・安心」という表題を掲げている限りは、できるだけ高い目標を持って進めなければ難しいという気がします。

◆ 主要な取組の指標の考え方について

(会長)

そうすると「施策04 子ども・子育て支援」の指標の「身近に子育ての悩みや不安を相談できる環境があると感じる市民の割合」が100%から54.4%と大変な減り方をしているのも、今説明されたような予測値、期待値になっているということですね。

(事務局)

こちらは過去5年の推移がより凸凹していますので、今後5年間の目標として毎年1%ずつ着実に市民の意識を上げていこうと考えて、5%を足したものを目標値としています。

(事務局)

施策評価を見ていただくと凸凹しながらも、48.4~48.5%とあまり変わりがありません。ただ、子どもの育ちに係る支援センターなど新たな取組をしながら、何とか上げていこうというところから目標を設定しています。

(会長)

上げていくための裏付けとして「こうすることによって上げていく」という内容が記載されているわけです。

(事務局)

この場合は、子育て支援に力を入れていくということで、今後5年間の主要取組項目にもありますように、支援センター等をつくって取り組んでいこうと考えています。

(会長)

このような議論になったので発言したいと思いますが、総合計画は元々総花的ではあるものの、その中でも市としては優先順位のトップに挙げているものを持たれていると思います。恐らく100%にされた「身近に子育ての悩みや不安を相談できる環境があると感じる市民の割合」は、市が一番力を入れたいと思われたから目標値100%にされていたと思います。そういう意味では、この目標値は元の100%で良いのではという考え方もあったとは思いますが。確かに、パブリックコメントにあったように数値のあり方の整合性とは違

うかかもしれませんが、それが計画ではないかと思います。100%というところに市の思いを書かれることで、市民の皆さんに市としての勢いを感じていただくこともあろうかと思えます。

(事務局)

指標について重い・軽いはなく、総合計画にあるものはすべて重いのですが、市として1番目、2番目に取り組みたいという代表的な指標については現在検討中ですので、また提示させていただく機会があると思えます。タイトルはまだ決まっていますが、計画から抜き出す等、大きな指標を何項目か抽出して、それを計画の公表と同時に、例えば市報などに「まちの通信簿はこれです」というような形で、毎年度10項目くらいの指標を載せて、市民に公表する形ができないかと検討しています。それは後日、提示させていただきたいと思っています。

どのような指標かと言いますと、総合戦略の具体的なアクションプランとして「ファミリー世帯の定住・転入を促進する」「経済の好循環と『しごと』の安定を目指す」等、3つの基本目標を掲げていますので、何が1番かと聞かれるとその部分になるかと思えます。

◆情報の発信におけるイメージ戦略の重要性について

(委員)

今の関連で、次のステップの話になるかもしれませんが、例えば、他団体では数年間、毎年、総合計画審議会が指標をチェックしています。そこで見えてきた話として、アンケート項目が上がらない理由が、施策をしていないことによるものではないということが分かってきました。つまり、実施していても、それが市民に見えていない、伝わっていないこともかなりあるということですので、施策で頑張る以上に「きちんと実施して状況が変わっています」ということを発信して、市民意識を変えていく努力をしなければ、この辺りの意識度は上がりません。

市役所も広報戦略の中で「これだけの施策を打って、このように状況が変わっています」と伝えていくような戦略をとっていただきたいと思います。

(事務局)

尼崎はシティプロモーションやシビックプライドの向上に取り組んでいますが、市議会等でも、具体的な内容が見えないとご指摘を頂いています。例えば、教育の施策もかなり打っていて、耐震化もほぼ100%まで来ていますし、学力向上にもかなり市は力を入れて取り組んでいますが、それでもまだ教育の施策に対するいろいろなご批判を頂いています。

そういう発信力の部分の弱さが課題であることは十分に受け止めている部分でもありますので、今年から市長が毎月定例で記者会見をする時は必ず教育の内容を1つ入れるという形で、教育長が同席し教育の取組について情報発信をしています。ただ、それだけでは十分ではないところもありますので、委員にご指摘いただいたような内容をしっかりと受け止めて、戦略的な発信の仕方を考えていきたいと思っています。

(会長)

我々も研究上でアンケートの数値をしばしば使いますが、落とし穴があって、例えば、

満足度の調査でも、実は全体としていろいろなレベルが上がっているのに満足度が上がらないということがあります。実際に、日本の幸福度調査が世論調査を使って行われていますが、所得が上がって少なくともかつてよりは良くなったところがあるのに、幸福度は同じで上がっていません。その解釈はいろいろとありますが、やはり皆が良くなっていくと、例えば、自分と隣を比較したり、あるいは東京に住んでいる人と比較したりしはじめて幸福度が上がらないようです。したがって、単純にこれだけですべてを解釈していくのは少し危険なところがありますが、これ以外に方法がないので、あくまでも研究上は使っています。この辺りもご配慮いただければと思います。

(委員)

市長に「人口を増やしましょう。ここで子どもを産み育て、教育しやすいところにしましょう」という話があったはずなのに、なぜ乳児の定期検診を不便にするのか、それでは逆ではないか」と言ったことがあります。将来のものをつくるのに行革で何かを犠牲にしても目標を達成しなければならないのかと勝手に思いますので、内容を考えて発信してほしいと思います。そうしなければ、受ける方も「要請しても、この程度か」と勝手に思います。

震災で良くなったのは伊丹で、伊丹のまちを歩くと、全く違います。あれがイメージチェンジであり、尼崎はもう少し違うイメージにしなければならないと思います。

(会長)

他にご意見があればご発言をお願いします。

(委員)

先ほどの「施策04 子ども・子育て支援」の指標のところ、根本に子育て・ファミリー世代への意識があるとすると、ここは最も不安にさせてしまう項目の数値が当初より低く見えます。全体的に高いか、低いかはイメージの問題なので、54.4%という数字を見ると徐々に上がっているとは思いますが、半分を超えたくらいの数字では決して高いという印象にはならないと思います。

「施策12 生活安全」の「安全・安心・快適に自転車を利用できている～」という指標も60.7%は決して高い数字ではありません。実際問題としての数字の推移から見るとこのような数字になるのかもしれませんが、伝える時は、もう少し先の目標値を挙げて良いのではないかと思います。100%の達成は難しいかもしれませんが、そこがイメージできるような伝え方をしなければ、「何も変わっていない」と思われてしまうので、若干不安な印象が伝わってしまうと思います。

したがって、その点は一工夫して、しっかりと伝えていただいた方が良いと思います。

(会長)

メリハリの部分とも関わっているかもしれません。

◆ 待機児童数0人の目標値について

(委員)

「施策 04 子ども・子育て支援」の P35 の指標で「保育施設等未入所(待機)児童数」の目標値 0 人は、先ほどの 100%問題を実現するものだと思いますが、それは可能なのでしょうか。可能にするという市の意気込みだと思いますが、ご説明いただけますでしょうか。

(事務局)

まさにその通りで、主要取組項目の中にも記載していますが、P62 の「子どもの育ちと活動への支援」のところにも「また、共働き世帯の増加や就労形態の多様化等に対応するため、引き続き、保育施設や児童ホームの待機児童の解消や～」と記載しています。このように主要取組項目の中に記載してきちんと取り組んでいこうということですので、待機児童 0 人を目指して取組を進めていくということです。

構成の最初と最後について

(委員)

書き振りについて 1 つだけ伺いたいことがあります。

まず、「はじめに」があって、その最後に「この計画をよりどころに、みんなが互いに協力し、工夫しながら、まちづくりに取り組んでいきたいと考えています」とありますが、そう考えているのは市だと思います。「みんな」というのは市も事業者も市民も含めた皆になりますので、「よりどころ」という言葉に違和感がありますが、分かりやすくされているのだろうと思います。

そして、最後は P73 の「計画の推進」で終わっていますが、最初にこの計画を作った時に目指したのは「ありたいまち」で、それが 5 年後から 10 年後までゆるぎないのはこの審議会で何度も確認していますので、最後にそれに触れるメッセージ的な部分があった方がよいのではないのでしょうか。4 つの「ありたいまち」はゆるぎなく目指すものであり、基本目標は「ファミリー世帯の定住・転入を促進する」等の 3 つですので、P73 の「計画の推進」としての「実施と目的」が並んでいます。その最後に「5 年間やってきて成果があったところ、そうではないところもあるけれども、さらに後期の 5 年間は～」という部分があった方がよいのではないかと思います。

もちろん中身を読めば十分に書かれていることだと思いますが、1 つの計画を真面目にこれから学ぼうと思う市民の方が読み進めたとしたら、最後に強いメッセージ性のあるものが市長の言葉であれ、市からの言葉であれ、審議会の会長の言葉であれ、あった方がよいのではないかと思います。

(会長)

尻切れトンボ的ではないかというご意見かと思いますが。論文で言いますと「小結」とか、次に続くという、何かを入れてはどうかというご提案です。これは今答えていただくよりも、事務局にご検討いただくということではいかがでしょうか。

(委員)

結構です。また何かこういうツールを作られた時でも構わないと思います。

(事務局)

一般的な行政計画の構成では、「はじめに」の部分で思いを書いて、そのためにこの計画を作っているという形で括るのが大体の流れになっています。

(会長)

全員の方にご発言いただきたいと思いますが、委員からご意見はございますか。

◆ 「施策04 子ども・子育て支援」の指標の取り方について

(委員)

子育ての指標の件ですが、「身近に子育ての悩みや不安を相談できる環境があると感じる市民の割合」は「相談できる環境があると思いますか」というアンケート調査の結果だと思しますので、アンケートの対象となった全員に対する割合になっていると思います。そうすると、身近に子どもがいない世帯の方も母数に入っていますので、本当に子育て中の親が不安を相談できないと思っているのか、20年前の印象で高齢者が答えているのかが分かりません。指標という意味では、もちろん全市民にそう思っただけことが大事ですが、まずは子育て中の親世代が不安に思っているのか、意外とそうではないのかという数字を知りたいと思いました。

子育て中の親が「相談できる環境がある」と答えた割合が50%以下であれば大問題ですし、意外と7割くらいの方が「大丈夫」と思っているのであれば、そちらの指標を載せた方が、先ほどの印象論からも良いのではないかと思います。

(会長)

母集団を限定すると逆の結果が出る可能性もあるので、統計をとるのが怖いですね。

(委員)

確かに、この数字が上がるか下がるかは現時点では確認できないので難しいところではありますが、データ上は簡単にできるはずですので、一度数字を出していただけませんかと思います。一見したところ、夫婦と子ども世帯、3世代同居、一人親世帯を入れると、半分くらいが子育て世帯ではないかと思います。

(事務局)

参考までに答えさせていただきますと、指標は「身近に子育ての悩みや不安を相談できる環境があると感じる市民の割合」ですが、アンケートは「あなたは子育ての悩みや不安について身近に相談できる人間関係や場所、専門家などといった地域の環境があると思いますか」という質問に対して、選択肢は「あると思う」「どちらかと言えばあると思う」「どちらかと言えばないと思う」「ないと思う」の4つです。それで該当するのは先の2つで「あると思う」「どちらかと言えばあると思う」と答えた方の割合を出しています。

年代別では、25～34歳を子育て世代と考えた場合、56%強の数字になっています。

(委員)

見る側にとっては、指標だけを見ると、母数に高齢者まで入れた数字であることが分からないと思います。子育て中の親世代で、そういう環境があると思っている人が48.4%し

かないと思うと低過ぎると思うので、若い世帯や子育て中の子どもがいる世帯だけを取り出して数字が上がるのであれば、嘘をついているわけではないので、そちらの数値を指標にして評価した方が良いのではないかと思います。

(事務局)

これは前期計画から続いているもので、5年間の数字を追っています。また、総合計画の指標では、アンケート結果の返ってくる人数が市民の年齢構成になるよう、全体で670通ほどが返ってくるようにアンケートを送付しています。総合的な指標をとって、もっと詳しく知る場合は各施策のところでアンケートをとってもらおうと考えています。したがって、年代別に分析した場合は母数が減ってしまいますし、それに耐え得るようなアンケートをとろうとしますと、毎年かなりの数を多岐の項目にわたって行うこととなりますので、なかなか難しいと思う部分もあります。

ただ、ご指摘の内容については重々理解できますので、次にこのような形のアンケートをとる時のために、年代別にとる等の工夫については宿題として持ち帰らせていただきたいと思います。

(委員)

確かに、細分化するとサンプル数が少なくなるという事情はよく分かりますが、この項目に限っては、むしろ子育てに関わっている人だけでアンケートをとった方が自然な感じがします。今は600くらいのサンプル数ですので、半分くらいになってしまうと思いますが、300くらいあれば少な過ぎることはないのではないかと思います。

(会長)

この計画を読む側としても、年齢階層で限定されるのが1つと、子どものいる子育て中の方が母集団である方が説得的です。本当はパネルデータと言って、一度アンケートをとった方が経年でどう変化したかというデータがほしいところですが、それは技術的に難しいと思うので、どこかで落としどころを見つけなければなりません。

(委員)

指標を変えるのが難しければ、母集団がそういう数字であることを注釈でも入れていただくと良いのではないかと思います。子育て中の親の「あると思う」という意見が5割を切っていると思われると、誤読になってしまいます。

(会長)

ありがとうございます。委員はいかがでしょうか。

◆尼崎らしさが伝わるタイトルの考察について

(委員)

新たな観点からの指摘はしませんが、最初の段階でも出ていた話で、伝え方について述べたい点があります。施策ごとにタイトルが付いていますが、どれを見ても尼崎のことだとイメージできません。安易に付けられているような印象で、「安全・安心」という言葉が

至るところに出ています。「 のまち」という言い方で揃えたのは1つのセンスかという気がしますが、「地域」と「まち」をきちんと考えて言い分けられているのであれば、「まち」でも良いかと思えます。特に「施策16」の「安全・安心、快適でくらしやすいまち」は、「施策12」にも「生活に身近な安全・安心を実感できるまち」とあり、重複しているのではないかと感じます。

総合計画なので総花的になってしまいがちだというのも理解しますが、伝える時に尼崎特有の課題が浮かび上がる等、尼崎らしさが出ると、皆が関心を寄せるのではないかと思えます。先ほども出ましたが、ファミリー世帯の定住・転入の実態は、深刻な問題なので、意見を出し合うと盛り上がると思えます。

そういう意味では、見出し1つでも典型的な尼崎らしい課題と状況を上手く吸い上げると良いと思えます。単純にSNSで発信しただけではだめだと思うので、中のコンテンツや出し方に気を付けなければ伝わらないのではないかと思えます。

(会長)

専門の立場からありがとうございました。

◆情報の発信とイメージづくり

(委員)

広報でいろいろなことをしてもなかなか伝わらないというのは、どの業界も同じです。特に大学の施策や教育については悩ましいところで、市民の方から学校教育に関して厳しいご意見を頂いていますが、教員たちも取り組んでいるのに、なかなかそれが外に見えないという問題があります。それをどうすれば良いかというのはいろいろなところに共通する悩みであり、尼崎の場合もそれが大きな問題になっていますが、適切な方法がありません。SNSやFacebookで発信しても、いろいろな問題がありますし、リスクがあると思えます。したがって、公の施設はやり難い部分があることは理解していますので、やはりくちコミが大きいと思えます。

特にP7の「尼崎市のイメージ」のところ、最初は良いイメージが挙がっていますが、2番目には「マナーのよくないまち」が挙げられており、25歳~34歳が出て行くという実態は尼崎に子育て世代が残らない大きな要因になっていると思えます。

(会長)

ありがとうございます。

(委員)

この期に及んでこういうことを聞くのは良くないかもしれませんが、当初から総合計画に関わって、やはり「尼崎」という文字がなくても、見たら尼崎の総合計画と分かるようにしてほしいとお願いしてスタートし、年数が経ちました。特に会長、副会長、大学の先生方はこういう総合計画の委員になられていることが多いと思えますが、今後の尼崎の総合計画の進め方については、他と比べてどうなのでしょう。私は良いように進めていただいていると思えますが、その点について伺いたいと思えます。

(会長)

それについては、最後に色々なところで委員をされている会長代理に意見を頂きたいと思います。

(委員)

それ以外では、やはり発信の仕方が課題だと思います。このような立場で20年ほど務めていますが、尼崎市の職員の一人ひとりには能力も違いますし、大変な能力を持たれている人もいて感心することもあります。負担を強いるような説明に行ったのに、終わった時に拍手が起こって、どういうことなのかと思ったこともあります。同じような内容を説明して、一方では不平不満を言われ、「市は何を考えているのか」と言われる職員もいます。もう一方では拍手が起きるといふ、そういうことに長けている方がおられるわけです。そういう人たちで、税を上げるとか、水道料金を上げる等、負担を強いる説明に行くための特別チームを作ってはどうかと思うくらいの能力を持たれています。

ですから、発信の仕方は「このツールを使えば情報が広がる」というものでもないと思います。ITを使うとか、マンパワーで話術に長けている方によって地域で出前講座をしていただく等、いろいろな形の進め方がありますし、せっかくの総合計画ですので、やはり広く知っていただくことが重要だと思います。

(会長)

ありがとうございます。

◆ 「施策11 消防・防災」の指標の置き方について

(委員)

総合計画ということで、これを軸にしているいろいろなことが動いていくと思いますが、やはり指標の決め方が大切だと改めて思いました。例えば、P48～49の「施策11 消防・防災」のところの指標を見ますと、1番は「人口10万人当たりの火災死者数」となっていて、施策評価では目標値0人になっていますが、PDCAを回していく上で現実問題として目標になり得るのかと考えますと、人間の命に係わるセンシティブなところだと思いますので、それを指標に置くのはどうなのかと個人的に思うところがあります。

それで、その件についていろいろとお話をしましたが、消防・防災という観点であれば、発生件数でも良いのではないかと思うところもあり、これを軸にいろいろなものが動いているので、この指標の置き方は検討が必要だと思います。そういうところも勘案されてここでは「全国平均値以下」という表現になっているかと思いますが、それであれば「火災発生件数」で良いのではないかと思いますので、こういう指標の置き方については、どのような観点で置くといろいろなものが動くかかというところを視点に置いて、設定していただければ良いのではないかと思いました。

(会長)

なかなか難しいところで、いろいろと事務局の方でもご検討の上だとは思いますが、今のご意見を受けて、今後に向けてご検討いただければと思います。

◆ 「尼崎市のイメージ」の表のまとめ方について

(委員)

P7の「尼崎市のイメージ」については先ほどから意見が出ていますが、これは良いイメージと悪いイメージが混ざって羅列されていますので、良いイメージに持っていきなら良いイメージを上段に集めて、悪いイメージの内容を下段に持っていくという形で振り分けた方が良いのではないかと思います。そうしなければ、良いものと悪いものが混じり合っただけで良いのか悪いのか分かりません。

年代別で記載できないのであれば、せめて男女別くらいは色分けや網掛けで表示できれば良いと思います。その上で、良いイメージを先に挙げて、悪いイメージを下に持っていった方が良いと思います。アンケートの聞き方では「マナーのよいまち」と「マナーのよくないまち」という訊き方をしていますので、「よい」と「わるい」の振り分けはできるはずですが、そのようにまとめられた方が良いのではないのでしょうか。

(会長)

アンケートの技法上、専門的な知見に基づいてこのような訊き方をされたのでしょうか。

(事務局)

選択肢はこの並びではなく、この表は回答数の多い順に並べています。アンケート自体は「よいまち」「よくないまち」「環境がよい」「環境がわるい」と同じ項目を続けて訊いています。

(会長)

委員のご指摘については、直感的に市民の方が誤解のないように理解できることが一番重要ですので、事務局でご検討されたと思いますが、また工夫されて分かりやすいようにお考えいただければと思います。

一通り皆さんからご意見を伺いましたが、これだけは発言したいということがございましたらご発言いただきたいと思います。

◆ 総合計画に対する意識について

(委員)

これは最上位計画であるということをしっかりと頭に入れていただきたいと思います。組織改革も含めて考えなければならないということであり、市の組織があって計画があるのではなく、計画があって組織があるというくらいの考え方で取り組んでいただかなければならないと思います。「ひと咲き まち咲き あまがさき」という言葉はとても良いと思いますが、市役所の職員の方々はその言葉を名刺に入られているのでしょうか。これは市民が出した言葉ですし、裏にある「目覚メヨ、アマリアルチカラ」という言葉もとても良いと思いますので、お願いいたします。

(会長)

ありがとうございます。

それでは最後に先ほどの委員からのご質問も踏まえて、会長代理からご意見を覗きたい

と思います。

◆ 尼崎市の総合計画と取組への評価について

(委員)

結論から言いますと、尼崎市の総合計画は良い線を行っていると思います。市民参加も積極的に行っていただいていますし、今回も明後日、総合計画市民懇話会を行いますので、しっかりと市民の意見も聞き、それを反映しながら作っているということでは、全国的にもかなりトップランナー的な作り方になっていると思います。委員が「総合計画市民懇話会がようやく面白くなってきた」と言われていますが、私もそれは実感しています。これから一緒にこれを動かしていくという段階に入りましたので、今後も継続して取り組んでいくという意味でも良かったと思います。

それから、先ほど「みんなのサマーセミナー」の話をしました。尼崎発ではないものの、尼崎は関西のトップランナーとしてとても良い影響を与えています。8月の第1土・日に開催しているこの「みんなのサマーセミナー」は私も毎年参加していますが、皆が手作りで2日間のイベントを行っています。さらにそこには老若男女が集まって来られますので、あのメンバーが総合計画の説明会等に乗りに来ていただけるととても良い雰囲気になります。しかし、総合計画の説明会と言った瞬間に違うメンバーになってしまうので、それを今回は上手くやっていただきたいと思っています。

また、「みんなのサマーセミナー」の実行委員会のメンバーは、元々それぞれのところでネットワークを持っている方々が年に1度のサマーセミナーを企画するので、それぞれのネットワークを持ち寄って、さらに強固なネットワークが出来上がっていると私は評価しています。そういう意味では「みんなのサマーセミナー」の手法が、今後のまちづくりの1つのモデルを示しているのではないかと思いますので、大切にしてほしいと思います。

私は3年間お付き合いをしてきて、あれは新しい尼崎の祭りではないかと思っています。363日は別々に仕事をしたり、生活をしたりしている人たちが、この2日間に集結するわけです。そして、パワーアップして、また次の日からそれぞれの生活に戻っていくという意味で、「みんなのサマーセミナー」を新しい祭りだと思っていますので、そういう祭りを繰り返していくような、そういう総合計画にしていきたいと思っています。

もう1つ、私がいつも感じていることで、尼崎らしさやメリハリと言われますが、総合計画はどうしても総花的になってしまいがちなので、ここに色を出そうとするのは相当に難しいのではないかと思います。一方で、今回はそれを受けた形で総合戦略が作られていますが、総合戦略はかなりメリハリのある書き方ができますし、夢のあることを出すこともできますので、総合戦略で「ありたいまち」についてメリハリを持って夢のようなことを記載し、もう少し地に足のついた形で総合計画を作るという、両輪の組み合わせで進めていくことが今後も必要ではないかと思っています。したがって、総合計画だけに過剰な期待を持って厳しいと思いますので、いくつかの計画を上手く組み合わせながら回していって、その大きな柱としてこの総合計画があるというような全体のシナリオ作りも必要ではないかと思っています。

最後に、私が5年前から言っていることですが、2つのことができれば面白いまちができるのではないかと思っています。1つは人材育成、もう1つが情報戦略です。人材が育ち、それを上手く情報でPRすることができれば、活気が出てくると思います。そこでもう

一度総合計画の話をしますと、総合計画の中でそれが記載されている部分のごくわずかで
す。ページ数は少ないけれども、本当はそこに注力したいというのが私の個人的な思いで
す。

具体的には、先ほど委員が組織について指摘されましたが、組織全体の改革も必要では
ある一方で、職員の人材育成の仕組がどれだけ手厚くなっているか、あるいは情報部局が
どれだけパワーアップして、いろいろなことをこの5年間で発信できるか等、その辺りが
非常に重要であり、それが重点化できれば、もっとパワーアップした尼崎市になるのでは
ないかと期待しています。

(会長)

この週末、台風のど真ん中の松山で学会があり、あるセッションの座長をしたのですが、
そこで1人の公認会計士の方が自治体の作る総合計画について分析して発表されました。
私は地域政策や都市政策の研究者ですが、公認会計士が総合計画を分析するという非常に
面白い話を聞かせていただきました。つまり、いろいろな目で総合計画を見ている人がい
るということであり、また我々もいろいろな立場から議論している計画ですので、是非と
も尼崎独自の先端を走る総合計画を皆さんで議論して、作り上げていければと思っていま
す。そして、来年辺りの学会でどなたかが発表していただければ良いと思いますが、公認
会計士はなかなか手厳しかったです。

それでは、時間を過ぎてしまいましたので、以上で議論を終了したいと思います。

事務局から報告がありましたら、お願いいたします。

◆ 今後のスケジュールについて

(事務局)

今後のスケジュールについて報告させていただきます。

本日頂きましたご意見及び25日に同様の内容を議会にも報告させていただきますので、
そこで出ました意見等も取りまとめまして、その対応について次回の審議会では報告
させていただくということで、次回審議会では答申案としてそれらを反映させまして、ご
提示したいと思っております。

次回の総合計画審議会は10月下旬頃を予定していますが、前述のように答申案を提示さ
せていただくとともに、前回の審議会でも議題に挙げさせていただいたように、後期まち
づくり基本計画の評価についても議論をお願いしたいと思っております。前期も20施策
56展開方向について評価を行っていますが、後期計画の策定に従って、来年頃から後期計
画の16施策51展開方向について評価をしていこうと思っておりますので、評価の手法等も
審議会でも審議していただければと思っております。よろしくお願いいたします。

10月下旬の日程調整につきましては、また担当の方から連絡させていただきたいと思
いますので、よろしくお願いいたします。

3 閉会

以 上